

NPO 法人 かながわ環境カウンセラー協議会 (KECA)
KECA ニュース =No.60=

【巻頭言】

「新しい環境活動」を見つける 1年にしましょう ～これまでの事業活動をベースとした新しい事業の展開～

理事長 河野 健三

1. まえがき

東日本大震災から6年を経過しました。3月4日に県民センターでは第23回市民環境活動報告会が開催され、～見つけよう！「新しい環境活動」～、未来のために“Cool Choice”、をテーマに基調講演と7つの環境活動発表が行われました。KECAからは当方が「東日本大震災がきっかけとなった福島環境カウンセラー協会との交流」、交流から学んだ三つのキーワード「自然」「信頼」「謙虚さ」をテーマに発表しました。また、基調講演では国立環境研究所の江守正多氏から、昨年11月に発効したCOP21パリ協定の長期目標を達成するためには、産業革命や奴隷制度廃止のような社会の「大転換」が起きる必要がある、とのお話がありました。

KECAは2年半後の2019年11月に1999年のNPO法人認証取得から20周年を迎えます。2017年度の通常総会(5月13日(土)の予定)では2017年度事業計画の審議をお願いします。2017年度の事業を進める中で20周年を見据えた社会の大転換につながるような「新しい環境活動」を見つけていきましょう。



発表する河野理事長



基調講演の江守氏

～目次～

p.1	「新しい環境活動」を見つける1年にしよう	理事長 河野 健三
p.3	【寄稿】 岡本正義さん 平成28年度かながわ地球環境賞受賞	環境教育委員 平野 雅明
p.4	【委員会活動報告】 『環境教育委員会』委員長 岡本 正義, 『環境管理委員会』研修担当 茂木 照雄, 『化学物質委員会』委員長 石井 員良, 『環境経営委員会』委員長 近藤 勝養	
p.9	【支部活動報告】	
	☆☆相模原支部☆☆	相模原支部長 武内 健三
	☆☆横須賀三浦支部☆☆ 小学校の「二分の一成人式」に招待されました	高橋 弘二
	☆☆湘南支部☆☆ 茅ヶ崎市立松林中学校1学年総合的な学習の時間に出前授業を実施	小山 稔
	☆☆県央支部☆☆ 県立座間谷戸山公園 紅葉観察会	守谷 喜芳
	☆☆横浜支部☆☆ 横浜市立泉が丘中学校での環境教育出前講座の報告	平野 雅明
	神奈川県立秦野ビジターセンター訪問記	原 洋夫
p.15	【会員投稿】	
	農業を体験し、農業を大切に、農業の技術をあげて、食を楽しむ	畑っこ・新羽の会代表 横浜支部 真砂 文夫
p.16	新人会員投稿 / 編集後記	

2. これまでの事業活動をベースとした新しい事業の展開

昨年12月に実施した会員アンケートにより KECA の課題、進むべき方向性がみえてきました。KECA の更なる発展のためには、事業つまり「外部に向けた活動」を如何に増やしていくかにかかっていると考えています。そのため 2017 年度は「これまでの事業活動をベースとした新しい事業の展開と共にそれをサポートする体制整備」を進めたいと考えています。

現在の支部活動、委員会活動の組織は 2003 年に開始され 10 数年経過しました。この組織の活動により今の KECA がありますが、新しい事業を展開していく中で、支部・委員会・事務局のあり方を検討して参ります。

KECA の事業には環境教育事業である環境教育インストラクター応募資格取得セミナーと学校への出前授業・環境フェアへの参加、環境経営支援事業であるエコアクション 21 普及セミナー、eco 検定試験対策セミナー、化学物質リスクアセスメントセミナー等があります。これらの長年に亘る事業活動の実績をベースとして新しい事業を展開していきましょう。

3. 福島との交流から学んだ私の三つの心構え

市民環境活動報告会で福島との交流について発表するに当たり「新しい環境活動」とは何かについて考えました。その結果がこれからの活動を進める基本としたい「自然」「信頼」「謙虚さ」の三つです。この心構えで進めて参りますのでご協力の程よろしくお願い致します。

(1) 「自然」の恐ろしさ、「自然」の大切さを分かり易く伝える。

私は震災 5 ヶ月後の南相馬市で、津波により内陸 3Km まで流された漁船を目の当たりにしました。その時、草花が青々と芽生え漁船を持ち上げているように見えたのです。「自然の脅威（恐ろしさ）と自然の優しさ（回復力）」を教えてくれているように感じました。自然の恐ろしさは言うまでもありませんが、自然の大切さを相手の人に如何に分かり易く伝えていくかについて考えていきます。自然との共生なしには生きられないということをあらためて学んだ次第です。

(2) 個人、団体、企業ともそれぞれの個性があり、個別に対応することにより「信頼」を得る。

震災 5 年後に宿で聞いた岩橋さんから聞いたお話しは忘れられません。「堤防の再建等ハード面の対策は時間が経てば解決されていくだろうが放射能汚染への懸念から家族の分断が起きており心の問題はこれから」。相手の状況に応じて誠実に対応し信頼を得ることしかないと思います。

(3) 誰でも誰かのお世話になっているので「謙虚」に対応する。

南相馬市で送電線の鉄塔が津波でなぎ倒された光景を視た際にあった「福島第一・第二原発と広野火力発電所の電力はすべて首都圏へ送られている」との説明は印象に残りました。その後の調査で約 20%が福島のお世話になっておりその他、新潟・千葉県等の電力で我々の生活は成り立っていて、神奈川県としての自給は 13%にすぎません。伝える相手の立場を尊重して進めていきたいと考えます。

首都圏は福島県産の電力に支えられていた

東京電力の発電所とサービス区域



東京電力管内の県別発電出力 (2010年3月末時点)

県	発電出力	割合
千葉県	1,650.0万kW	26%
福島県	1,325.0万kW	21%
新潟県	858.1万kW	13%
神奈川県	829.5万kW	13%
総計	6,448.7万kW	

「東京電力 電力設備」(平成22年度版)から集計

【寄稿】

岡本正義さん（川崎支部・環境教育委員長）
平成28年度かながわ地球環境賞受賞

環境教育委員 平野 雅明

平成28年度かながわ地球環境賞の表彰式が、平成29年2月1日（水）に神奈川県庁にて開催され、当NPO法人かながわ環境カウンセラー協議会の岡本正義氏が地球環境保全活動部門に個人として唯一選ばれ黒岩知事より表彰状を授与されました。永年の環境学習・環境教育を通じた環境保全活動が評価されました。誠にありがとうございます。

岡本さんは環境教育委員会に所属し委員長として神奈川県内はもとより各地で環境学習・環境教育をされています。地球環境や生活環境そして自然環境と幅広い分野で、小・中・高等学校の児童・生徒や先生方に授業をされています。答えのない環境について自ら気づき行動につながる環境学習・環境教育の普及につとめておられます。また、地球温暖化防止活動推進員やかながわ環境教室派遣講師、環境教育インストラクター応募資格取得セミナーなどの研修講師を務め、環境問題に対し未来の担い手を育成する学習指導を行っており、人材育成の点でも多大な功績を残されています。

表彰の対象概要（表彰状含む）と表彰式の模様は下記の通り。



表彰状（かながわ地球環境賞）
地球環境保全活動部門では岡本さん
の他6団体が選ばれています。

環境学習・環境教育を通じた環境保全活動

平成16年から自主的な環境学習・環境教育や環境保全活動を継続的に行い、多くの県民に対し地球温暖化防止などの環境保全意識の向上に努めている。また、神奈川県地球温暖化防止活動推進員、川崎市地球温暖化防止活動推進員及びかながわ環境活動支援コーナーアドバイザーとしての活動のほか、かながわ環境カウンセラー協議会員や（公財）日本環境協会こども環境相談員としての小中高等学校の環境授業など、環境学習・環境教育の普及推進と、環境人材・環境教育指導者育成に取り組んでいる。

（平成28年度かながわ地球環境賞受賞者紹介より）



受賞者記念撮影（前列右端が岡本氏）



黒岩知事より表彰状授与

【委員会活動報告】

☆☆環境教育委員会☆☆

委員長 岡本 正義

1. 遠く宮崎県、新潟県からの参加者をはじめ16名が参加し、2016（平成28）年度環境教育インストラクター応募資格取得セミナーを開催しました。

2016年10月29日（土）、30日（日）の2日間、かながわ県民センターで、KECA 主催、環境カウンセラー全国連合会（ECU）共催で、環境省関東地方環境事務所および神奈川県の後援を得て、掲題のセミナーを開催いたしました。環境教育を実践しようとする意欲のある人あるいは、既に環境教育を実践している人で指導者として「環境教育インストラクター」の登録をしたい人など、遠く宮崎県、新潟県、茨城県や首都圏から16名が参加して、2日間の熱心な議論や意見交換を行いました。

□ECU 佐々木進理事長およびKECA 河野健三理事長から指導者としての大事な能力として実践力を身につけることであると挨拶された後、神奈川県環境部環境計画課長平田実様から神奈川県における環境行政と環境教育の取組みの実態の講義を頂きました。その後は、KECA 環境教育委員会の委員が講師となって、(1)最近の環境問題、(2)教育の場の安全対策、(3)保育園・小学校、地域での環境教育、(4)森林の環境教育、(5)環境教育を行う上での要点、(6)事業者向け環境教育について実践事例を中心に講義を行いました。

□講義の後は、地球・生活環境系、環境経営・事業者教育系、自然環境系の4つのグループに分かれてワークショップを行い、グループ毎に環境学習あるいは自然体験の実施計画書を作成しました。この経験をもとに、参加者全員が自らの計画書を作り、10～15分間の模擬授業を行い、授業遂行の良かった点、改善点と課題をメンバー同士で議論し、実践力向上につなげました。

□最後に、環境教育インストラクター認定登録手続きを説明した後、河野理事長から全員に養成セミナー修了証が授与され、セミナーは無事終了しました。

□セミナーを振り返って

4月の早朝のネットでの会場予約、7月に準備を開始し、8月にパンフレット作成と9月から関係団体への案内などを行いました。商工会議所経由のエコピープルのほか県の関係団体へのPRも積極的に行い、申込みを多くいただきました。目標とした20名には及びませんでした。今年度も遠方からの参加者を含め16名に参加していただきました。

セミナーアンケートでは、14/16名から「良かった」、テーマも適切であったとの回答をいただき、準備の苦勞、当日の疲れも吹き飛びました。ワークショップでは、模擬授業で実際の授業のイメージが掴め、聞く側のことを考え、教える立場でどう分かり易く伝えるかの発表もでき実践的な勉強ができて良かったとの回答も多く寄せられました。

さらに今後に向けて「企業での環境教育のフォローアップセミナー」の要望を13/16名の参加者からいただきました。近々、環境経営委員会、環境管理委員会の皆様にフォローアップセミナーの企画を相談させていただく予定です。



佐々木 ECU 理事長の挨拶



企業の事例紹介



グループワークショップ



代表の模擬授業



参加者と土佐有との交流

2. 神奈川県環境・エネルギー学校派遣事業からの委託で

川崎市立向小学校で出前授業「風呂敷包み体験」を実施しました

2016年11月4日（金）に川崎市立向小学校5年生2クラス72名に「風呂敷包み～ごみを増やさないエコ生活～」というテーマで出前授業を行いました。

1クラス毎に2コマ（2時限）の授業を行い、クラス児童36名を6つのグループに分けて、KECA講師5名が児童をきめ細かくアドバイス、サポートを行いました。

授業はクイズを主体に実物を見ながら学習を進めました。風呂敷包みは、全員が包み体験を行いました。

最初に地球、自然の素晴らしさを画像で見てもらい、「ごみが増えたらどうなるか」を児童と一緒に考えました。次に「ごみを増やさないようにするには？」ということで3R（リサイクル、リユース、リデュース）を寸劇とクイズを交えながら、児童に考えさせ、発表してもらいました。

ここで大事なことは、知識として知っていることではなく、商品に記載してある環境マークに注意を払い、発見、理解すること、並びに使う器具の利点、問題点に気付くように児童とのQ&Aを行い進めることです。商品だけでなく、身近な街中にも3Rがあることを画像の中から児童が発見しました。

続いて、究極のリデュースである日本古来の風呂敷について、4種類の包み方や包む以外の別の用途、たとえば三角巾や防災頭巾などを学び、体験して、風呂敷の素晴らしさを実感してもらいました。

児童の感想の一例を紹介します。

3Rを積極的に使っていこうと思います。例えば、「着れなくなった服は、妹にあげる」とか……。私の家はレジ袋しか使わないので、今日帰ってお母さんに「エコバッグの方がいいよ」と言いたいです。「びん包み」はとても難しかったけど、見た目がカッコ良かったし、細長い物なら何でも包めるから良かったです。

風呂敷は防災頭巾やリュックなどいろいろなことができるのを知って良かったです。特に防災頭巾は家ですぐ作れるので、地震の時に大変助かります。

授業スナップ写真



牛乳パックは何からリサイクルされたか？環境マークを発見できたかな。



びん包みは難しかった



防災頭巾になることを体験しました

☆☆環境管理委員会☆☆

平成28年度第2回 エコアクション21力量向上研修会

研修担当 茂木 照雄

表題の研修会は平成29年2月17日（金）13時～17時、フクシア3F多目的ホールにて行われました。参加者は24名でした。

最初に地域事務局かながわの川崎事務局長より基調講演「ea21 審査人へのお願い」を行っていただきました。受審事業者へのアンケートが開始され事業者が審査人を厳しく評価しています。審査報告書の内容をさらに充実させるなど事業者に役立つ審査を行わなければいけないと思います。

ついで古川委員より「企業価値を高める環境経営（企業に役立つ審査）」をテーマに講演をいただきました。企業を取り巻く経営環境がますます厳しくなっている状況下で環境経営が益々重要となっていること、審査人は業務実態を把握し経営を良くするための改善課題を検出し指導することができなければならない。研鑽すべき事項や到達すべき目標が示され出席した審査人は大きな啓発を受けたと思います。

グループ討議は4班に分かれ行われました。A,B,D班は「企業価値を高め企業に役立つ審査をどのように行うか」、C班「認証登録企業3万社に向けたKECA及び審査人の対応について」を設定し討議し発表をして頂きました。

企業に役立つ審査として①社長との良い関係 ②改善事例説明 ③代表者のやる気を引き出す。④利益の提案 ⑤全従業員の活性化 ⑥環境リスク低減 ⑦認証取得事業者の集い（良い点をまねる）⑧s w o t分析・・・などが重要との発表がありました。

3万社にむけた取組では、Pro-ing (Project, Information, Network, Give & take) プロであり続けること、質の向上と行動する集団でありつづけることが提案されました。

次回の研修会のテーマとしては「ガイドライン、審査判定の手引きに精通させる取組」「現場審査チェックリストの充実」、「審査の事例発表」に関するものが多かった。

有意義な研修会でしたが、同じ議論の繰り返しではないか、との指摘もあり、環境委員会などを利用して勉強の機会をもっともつべきとの気運が高まりつつあります。



研修会の模様

☆☆化学物質委員会☆☆

「化学物質のリスクについて」セミナー開催報告

委員長 石井 員良

平成29年1月14日（土）に「化学物質のリスクについて」セミナーを開催しました。

平成28年6月より、「化学物質のリスクアセスメント」の実施が義務化されましたが、多くの事業者の方には、「化学物質のリスクアセスメント」の実施がまだまだ浸透していないようです。

その一因に「化学物質のリスク」の分かり難さがあると考えています。そこで、「化学物質のリスク」について基礎的な事項を分かり易く説明するセミナーを開催することにしました。また、今年新聞紙上をにぎわしたのが東京都中央卸売市場の豊洲移転に伴う土壌汚染問題です。土壌汚染問題は、化学物質の問題でもあり、化学物質のリスクに係る問題でもあります。そこで、土壌汚染問題、土壌汚染防止（対策）について基礎的な事項を分かり易く説明することにしました。

参加希望者は、8名（内、KECA 会員2名）で、セミナー参加者は、7名（内、KECA 会員2名）で1名欠席でした。

セミナーは、3講演からなり、演題は、「化学物質のリスクについて」、「化学物質のリスク評価」、「土壌汚染対策」で、スケジュール通り進行され、活発な質疑応答もありました。

アンケート結果によりますといずれの講演も「参考になった」（大変参考になった、少し参考になった）が70%以上あり、参加者がセミナーの内容に満足されたことが分かります。特に、話題となっている土壌汚染問題についての講演が好評でした。

今後のセミナーのテーマについては、「化学物質の性質」、「エネルギー関係」、「食品や化学汚染の最近の事例」が要望されていました。

化学物質委員会としては、アンケート結果を参考に、事業者向け、市民向けを問わず、世間が関心を持つテーマを取り上げ、より分かり易い化学物質の情報発信を心がけますので、ご期待願います。

また、セミナーのアンケート結果は、KECA のHP（化学物質委員会）に掲載予定ですので、ご覧になってください。

改めて、セミナー開催にあたっての化学物質委員会及びKECA 会員の皆様のご協力に感謝いたします。なお、セミナーの資料をご希望の会員の方は、KECA 事務局までご連絡願います。



セミナーの様

☆☆環境経営委員会☆☆

会員の著書紹介：「コミュニケーションがシンプルに：ポジティブ観察法でハートアップ」 委員長 近藤 勝養

著者の岩淵雅明氏はかながわ環境カウンセラー協議会の県央支部の会員です。委員会活動を共にする中で、人柄や企業を支援する力量は尊敬していましたが、このような素晴らしい本を書かれたことにはびっくりしました。

この本は著者の現役時代の長年の経験に、ISOやエコアクション21に関する審査やコンサルタント活動により、悟ったコミュニケーションの急所が書かれています。

コミュニケーションは人が生きていく上でも仕事でも、私生活でも最重要テーマであり、多くの本も発行されています。川崎市の図書館で「コミュニケーション」のキーワードで検索すると、1001冊がヒットしました。

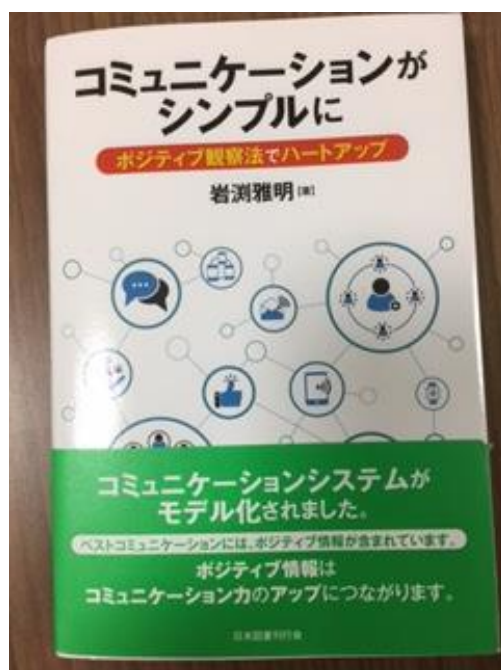
このようなたくさんの中、この本の特徴は次の3点です。

1. コミュニケーションをシステムとして捉えて、わかりやすくモデル化した。
2. 前向きの「ポジティブ観察法」の重要性と発見の急所を明確にしていること。
3. 事例を数多く記載し、多くの人が利用しやすくしていること。

詳しくは書店で本を購入し読んでいただきたいのですが、モデル化のポイントは

- ・コミュニケーションシステムを（コミュニケーション形成環境：場）と（コミュニケーションプロセス：流れ）の2つのサブシステムに分解していること。
- ・2つのサブシステムが把握しやすいように、フォーマットを作成し、数多くに事例を挙げていること。

やや詳しくすぎるところもありますが、自分に合った部分を活用することで、コミュニケーション力をつけることが、今後の人生を豊かにすると思われまます。



【支部活動報告】

☆☆相模原支部☆☆

支部長 武内 健三

1. 支部定例会

支部の定例会議は隔月に1回の割合で開くことを原則にしています。今年度から無料のさがみはら市民活動サポートセンターで開催し、理事会等の報告、年度の活動計画・実績の報告と審議、EA21 普及活動、さがみはら地球温暖化対策協議会支援などの活動事業と環境問題について意見交換をしています。

2. 主な支部活動

(1) EA21 普及活動

7月13日に相模原市、相模原商工会議所、神奈川県中小企業団体中央会などの後援を得て、市環境情報センター活動室で「環境省エコアクション21CO2削減プログラム補助事業説明・相談会」を開催。

市内の中小企業事業者8社を含む20名が参加。その内6社がエコアクション21CO2削減プログラム(Eco-CRIP)に参加申込し、エコアクション21(EA21)環境経営システムを構築後、全ての事業者がEA21登録認証審査の申込を行った。

(2) 行政・関係団体との協働

さがみはら地球温暖化対策協議会(温対協)の会員となり、市役所・事業者・市民と共に対策部会と調査・研究部会で活動している。さらに市環境政策課が事務局の「相模原の環境をよくする会」の賛助会員として活動している。

① 相模原市自治会への地球温暖化防止の出前講座(講師 古屋伸夫)

相模原支部ではさがみはら地球温暖化対策協議会と連携して相模原市内の自治会に地球温暖化防止の普及活動の一環として出前講座を行っています。最近では、平成28年12月11日(日)に上鶴間自治会様、平成29年2月19日(日)に宮上連合会様に出前講座を行いました。いずれの講座も一時間以上の時間をいただき、地球温暖化の現状、日本のCO2削減目標の話に加えて、蛍光灯型とLED型シーリングライトの消費電力の実演、家電製品の省エネ度を比較するウェブサイト「しんきゅうさん」の実演、でんき家計簿の実演と利用方法等、実生活に役立つ省エネ情報をお話ししました。授業の中では、電気料金の仕組みを教えてくださいとか、なかなか壊れない冷蔵庫を買い替えるための知恵はないか、等々の質問をいただき、これからも実際の省エネ行動に直接つながるお話をお届けできるように工夫を重ねていきたいと考えています。



② 「相模原の環境をよくする会」の賛助会員として

野鳥観察会などに参加し、活動を支援しています。同会の総会で、事業者の地球温暖化防止対策も活動に取り上げたらどうかの提案も行っています。

☆☆横須賀三浦支部☆☆

小学校の「二分の一成人式」に招待されました。

高橋 弘二

「よこすか環境教室」として、昨年7月、市立小学校4年生3クラスで、クラスごとに教室での「身近な水と平作川について」の2時間授業と、平作川の上流へ出かけて午前中の自然体験学習の授業を実施しました。

そんなことがあって、年末に4年生の児童10数人から一字一字丁寧に心を込めて書いた「二分の一成人式」（満10歳）の招待状が届きました（一括先生を通じて）。

1月14日（土）午後、都合のついた4人（中村、遠田、高橋ほか）で学校に伺いました。土曜日でしたが全校登校日で、4年生だけが体育館に集まって「二分の一成人式」、体育館内は児童約100名と、それを大きく上回る保護者（中には両親+祖父母?）が集まっていました。

学年主任の先生のお祝いの言葉があって、メインイベントは各クラスごと全員による英語劇、「みにくいアヒルの子」「浦島太郎」など、練習の成果を發揮して大変上手に演じてくれました（ちょっと声が小さかったが）。

10日ほどして、出席してくれたことに対するお礼の手紙10通あまりが届き（先生を通じて）、一同感激!! 連名でお礼の手紙を書いて送りました。



舞台のバックに飾られていた作品



「二分の一成人式」会場の様子

受賞しました

□「すかっ子セミナー実行委員会」が、第4回グッドライフアワード（環境省）を受賞

“すかっ子セミナー”は、公立の学校が5日制になった2002年、横須賀市内（原則）の小中学生を対象に土曜日にさまざまな分野の活動を体験してもらおうと始めたものです。自然系4、生活環境1、創作科学1の6コースに毎年40～70名の小中学生が参加しています。活動は5～10月毎月1回、11月に活動報告会を行います。このたび長年の子どもの健全育成活動が評価され、12月10日にグッドライフアワード実行委員会特別賞（「環境と学び」部門）をいただきました。

※高橋弘二（実行委員長）、中村修二郎（実行委員）、小嶋修一（実行委員）、遠田和雄（事務局補助）

□横須賀「水と環境」研究会が横須賀「市民表彰（市民公益活動に貢献）」を受賞（2017.2.11）

同研究会は1988年に創立し、主に三浦半島を流れる河川を河口から上流へ自然観察を楽しみながら通り、途中何箇所かで水質・水生生物・水環境調査を行い、水環境の現況の情報発信、環境保全・普及活動を行ってきました。また、小学校の環境教育、保育所の「エコ育」や上記の“すかっ子セミナー自然系A&D”などに組み込み、さらに市民協働・ネットワーク活動として、「湘南国際村自然ふれあい楽校」、「里山的環境づくり実行委員会（芦名堰、沢山池、かがみ田）」、「三浦半島まるごと博物館連絡会」などで中心的役割をはたしています。※高橋弘二（代表）、中村修二郎（副代表）

☆☆湘南支部☆☆

茅ヶ崎市立松林中学校 1 学年総合的な学習の時間に出前授業を実施

小山 稔

KECA 湘南支部は、神奈川県環境農政局環境部環境計画課から募集のあった平成 28 年度「環境・エネルギー学校派遣事業」に「見て、聞いて、触れて学ぼう！地球温暖化」をテーマとした出前授業を応募し、平成 28 年 12 月 7 日(水)と 12 日(月)の両日、茅ヶ崎市立松林中学校において標題の出前授業を実施したので、その概要について報告する。

生徒は 1 学年 203 名 (34 名/クラス×6 クラス)。クラス毎に授業を行いたいという学校側の要望もあり、学年主任の先生と複数回の面談や FAX 交換により、具体的な授業内容や実施日程などを調整した結果、12 月 7 日、12 日の 6 時限目に 3 クラス/日×2 日、以下のような 50 分授業を行なうこととなった。授業の構成は、県が作成した DVD (地球温暖化) の上映、クイズ形式による DVD の復習と補足講義、ワークショップである。講師は嶋田、西村、小山の 3 名が担当したが、各クラス間の授業内容にばらつきがないようにするため、3 人が何度も打ち合わせ調整を行ない、共通の PowerPoint 資料を作成してそれを基づいて授業を進めた。当日は PC・TV などの学校の機材を使うため、機材の設定作業などは各クラスの担任の先生にお願いした。また、各クラスが 6 つのグループで編成されており、とくにワークショップの実施にあたっては、グループ毎に生徒を誘導する必要があったため、朝の学活の時間に生徒に授業の進め方などを事前に説明してもらい、生徒がスタッフの誘導によって混乱なく円滑に作業ができるように配慮し、講師のほか各クラスに 2 名のワークショップ支援スタッフに協力してもらった。今回、KECA 会員の方々の諸事情もあって、急遽、支援スタッフには神奈川県地球温暖化防止活動推進員(湘南・西湘)ほか 8 名の方々にご協力をいただいた。ご支援をいただいた皆様に深謝。以下が当日の授業概要である。

1. はじめに私たちの暮らしと地球環境問題との関わりについてスライドで説明。
 2. つぎに、地球温暖化とその原因、温暖化による影響など、その現状や将来予測などについて、DVD の上映とクイズ方式による復習。
 3. さらに、地球温暖化対策である「大気中の二酸化炭素濃度を減らす対策「緩和策」と温暖化に備えて、その影響を少なくするための対策(適応策)」をスライドで解説。
 4. ワークショップは、アジェンダセンター所蔵の節電家族と消費電力比較器の実験、今回の授業のために作成した「緩和策」「適応策」の事例を印刷した絵札を使った絵札選びや生徒自身が自分できそうな対策(行動目標)を考えるという体験学習。
 5. まとめでは、地球温暖化問題は世界中の人々が取り組まないといけない重要な課題であり、私たちも自分ができる身近な対策を見つけて取り組むことが大切であることを説明し、学校や家庭で自分ができることに取り組むよう動機付けを行なった。終わりに各クラスの学級委員から「授業ありがとうございました」のお礼の挨拶があり、無事終了。
- ※ 今回の出前授業は、準備に苦労も多かったが、生徒のアンケートを見ると、2/3 の生徒から「授業はよかった」「講義も理解できた」「ワークショップは面白く楽しかった」などの感想が寄せられ、また、「LED がなぜ小さな力で点灯できるのですか、植物の品種改良はどのように行われているのですか、なぜすぐに地球温暖化を止めないのですか」など、22 名の生徒から質問があり、当初の目的はほぼ達成できたのではないかと思います。質問された生徒には各講師が分かりやすく丁寧に解説などを書き添えて後日回答した。
- ※ 反省点は内容が盛り沢山であったため、終了時間が少しオーバーしたことである。



講義を始める嶋田講師



消費電力比較器の実験



絵札選びに熱中する生徒

☆☆県央支部☆☆

県立座間谷戸山公園 紅葉観察会

守谷 喜芳

12月4日(日)、県立座間谷戸山公園に行ってきました。夕方午後3時に座間駅集合し、観察会の後に、忘年会を兼ねたものでした。自然観察会では何時も品川さんが手作りの資料を用意してくれます。今回は歩くルートに沿って植物の概要をまとめたものです。最初に線路沿いで、葉をひろい説明してくれました。「ソメイヨシノ」の落ち葉は、桜紅葉と呼び、葉柄の上に蜜腺があるとサクラに判定できるようです。また、植栽の理由が防風対策・防雪対策と説明してくれましたが、勉強になりました。今日は、21種類の葉の説明を聞きましたが、幾つ覚えられたか…。一番きれいだったのは、日が暮れ始めた中での「イロハモミジ」です。赤色の葉がとてもきれいでした。集合写真を撮ったところが、水鳥の池です。静かな池に、マガモ、カルガモが泳いでいました。近所の方々でしょうか、散歩に訪れている人達にも出会いました。暖かくなったら、また行きたいと思いました。5時半ごろ相武台前駅に着き、古川さん、三島さんが合流し、楽しい忘年会となりました。



☆☆横浜支部☆☆

横浜市立泉が丘中学校での環境教育出前講座の報告

平野 雅明

横浜市の環境教育出前講座は、生物多様性や地球温暖化、水や緑、大気など、身の回りの環境問題に気づき、理解を深めてもらうことを目的としている。市民活動団体や企業が、小・中・高等学校、放課後児童育成施設や地域等の現地に講師として出向き、実施している。横浜支部では平成27年度から28年度にかけ計3回、プログラム名「体感!!;PET ボトルの3R」の出前講座を実施した。平成28年11月30日（水）横浜市立泉が丘中学校において実施した概要を報告する。

中学校からの申し込み内容は、対象が全学年456人という大人数で、時間枠50分という困難な内容であった。しかし、先生方の要望に応えるため挑戦するつもりで引き受けた。担当の先生との事前打合せやメールでの協議で、授業イメージを図1のとおり作成した。授業は全学年対象にしたため体育館で実施となった。クラス代表の生徒達（2から3名）に前テーブル6か所で体感・実験してもらい、見にくいプラスチック分離実験は小型カメラで前面スクリーンに投影し、その映像で体感する方法をとった。横浜支部会員と企業の支援者（計6名）の援助のもとに時間内にプログラムを終えることができた。

全学年という大人数を対象にカメラの映像を用いることなど工夫することで、多少なりとも実験を体感することができたかと思う。担当の先生からは緻密な打合せと分かり易い説明を受け、PET ボトルの3Rの大切さに気付いたとの感想をいただいた。

表1にプログラムの概要と授業の様態を示す。

表1 プログラムの概要

学習目標はPET ボトルの3Rを体感・実験することで、3Rに取り組むことで大切な地球資源の消費を抑えることができ、地球温暖化の防止につながることに気付く。

1 アイスブレイク：パワーポイントで説明

★PET ボトルは地球の資源である石油からできている

★PET ボトルをそのまま捨てるとごみとなり石油が早くなる。燃やすと地球温暖化。→その解決策の3Rってなに？

2 体感1；PET ボトルのリデュース

★昔と今のPET ボトルを触って違いを体感。今のボトルは薄肉で軽量、ボトル製造の石油の量が少ない。

3 実験1；PET ボトルのリユース/ボトルを使った実験

★PET ボトルに水を入れ、空気と二酸化炭素を吹込み、振ることでボトルが変化。温暖化ガスの二酸化炭素は水に溶けやすくボトルがへこむ。海水のPH低下でサンゴ白化現象。

4 実験2；PET ボトルのリサイクル/プラスチック分離実験

★PET ボトルの処理はどうしている？

★処理工程の比重分離を実験/蓋、本体、ラベルを分ける

★リサイクル品にはどのようなものがあるか

5 まとめと振り返り

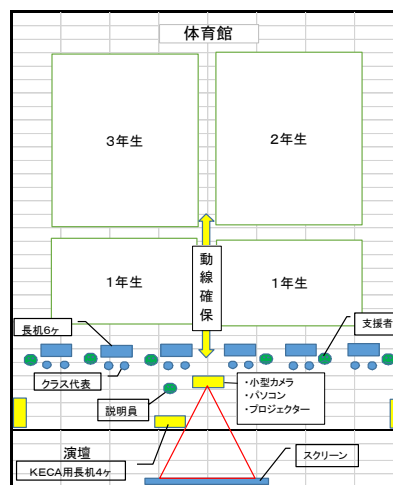


図1 授業イメージ



授業の様態

☆☆横浜支部☆☆ 神奈川県立秦野ビジターセンター訪問記

原 洋夫

訪問日：；11月25日（土）、横浜支部会員参加者；9名

横浜支部は年間行事として自然観察会を開催している。前日は、この時期としては、気象庁観測始まって以来の大雪が降った。当日は好天で参加者の心配をしたが10名近くでほっとした。10時半ごろ小田急渋沢駅に集合、大倉行バス約15分で県立秦野戸川公園内にあるビジターセンターに到着した。心配した雪も大分解けていて野外研修も何とかできそうでほっとした。ビジターセンターは木造2階建て、一階には丹沢の自然展示物が陳列されている。名物の“生きたヒル”もいた。レンジャーの長澤さんに予約の内容でのレクチャーをお願いした。

午前中は約1時間のスライドトークによる丹沢の紹介である。丹沢山塊の面積は神奈川県のおよそ1/6、海拔1672mが最高で1000m以上が特別保護区であること、昔は藪山だったが、高度成長期の植林密植で山が荒らされたこと、生い立ちは海底火山で1500万年前海底がフィリピンプレートの上昇で隆起したこと、その証拠として海水冷却でできた枕状溶岩やサンゴ・貝の化石がみられることなど。動物はツキノワクマを頂点にイノシシ、シカ、サル、アナグマ、キツネ、タヌキなど・・・。

昼食は持参の弁当をビジター内の和室を借りてとったが、近くに食堂もありそこに行った人も何人かいたようだ。

午後はいよいよフィールド観察である。まずは玄関前の欅（ケヤキ）の木の下で欅の種のヘリコプター式種の飛ばし方を学んだ。種のとりの葉っぱと一緒に小枝で風によって遠くまで種を飛ばし子孫を広めようとする戦略である。そのあと水無川の「風のつり橋」前で記念写真を撮り（写真；大竹氏提供）橋を渡ると丹沢登山道に合流するがすこし登ったところの林が観察会の場所である。定点カメラも設置されている。雪がまだ残っていて動物の足跡を見るにはよかったのか？しかし昼間でもあり動物は見られない。良く観察するとイノシシ、シカの足跡は何とか確認できた。定点カメラの写真紹介からは他にアナグマ、タヌキなどもいるようだ。近くにアナグマの巣があるというので同列になり結構厳しい傾斜のやぶの中など歩いて見に行った。斜面に穴が開いているだけだがすこしだけフィールド観察の醍醐味を味わった感じがした。（写真；木村氏提供）

約2時間の体験であったが、お天気に恵まれ自然界の一端を体験できた楽しい時間であった。帰りは渋沢駅の近くの居酒屋で反省会を行って出た時外は暗くなっていた。



風のつり橋にて



アナグマの巣

【会員投稿】

「農業を体験し、農業を大切にして、農業の技術をあげて、食を楽しむ」

畑っこ・新羽の会代表

横浜支部 眞砂 文夫

私達19家族は、横浜市が事業として推進してきた「市民の生涯学級・農業体験活動」を引き継いで、港北区の仲間とともに「畑っこ・横浜新羽の会」と銘打って遊休農地の保全・利活用に取り組んでおります。

以前から、小さな子供を持っている家庭においては、子供達の自然に触れる機会が目に見えて減少し、何とかしたいと考えておりました。

畑づくりを通じて「自然の恵みによる植物の育成と成長」「虫たちによるスイカ・かぼちゃ等への自然受粉の営み」「自分達で育てた作物の収穫と収穫作物を大喜びで食べる子供たちの成長」を楽しみに、親・子供が自然の持つ不思議と偉大さを肌で感じながら、自然・環境・農業の知識をつける機会を私たち大人の手で作ることを目的に、このような体験型の農業学級活動(自然塾)を提供しております。

私は現在、横浜市と事業を立ち上げた先達の思いを引き継いで、横浜市港北区新羽町で150坪の畑をそのまま引き継いで55人の子供たち・親と共に畑づくりを自主運営で続けております。区役所と共に立上げて延べ14年の歴史を積んでおります。

栽培中の野菜は、当初は4種でしたが、現在は25種前後に増やし、会員で収穫物を分け合う形で運営しております。将来は、ここ新羽の畑を拠点にして地元の港北区地区センターでの座学と畑での体験型活動を組み合わせて、環境保全と畑づくりを目指すリーダーを集めて、環境と農業を組み合わせた実践教育を開発し、地域での農業体験活動の輪を広げられないものかと考えております。それが神奈川への取り組みをさらに高め、地産地消の畑作農業を広める早道だと思っております。その様な夢の実現も目指して細く・長く続けていければと考えて取り組んでおります。



【新人会員投稿】

■氏名：遠藤 裕 （えんどう ゆたか）

■所属：横浜支部、EA21 グループ

皆さんこんにちは。昨年の11月に入会しました、遠藤裕です。
所属は横浜支部で、現在 EA21 グループにオブザーバ参加させていただいております。

環境カウンセラー登録は事業者部門で、水質、資源・エネルギー、3R 関係を専門としています。

前職迄の経験と、定年退職後取得した資格等を生かして、技術・環境系の行政許認可申請業務を中心に行っています。

今後は環境ビジネス、環境配慮事業展開をお考えのお客様に対し、法人設立、環境マネジメントシステム構築、公的補助・助成、融資等を含め、充実した支援サービスを提供していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



経歴	東京都杉並区出身 早稲田大学理工学部・機械工学科卒業 大手電機会社半導体工場で生産技術、工場付帯・公害防止施設建設技術、環境監査、環境マネジメントシステム(EMS)等を担当。この間 ISO14001 認証取得。	保有資格	行政書士（神奈川県行政書士会所属） 環境カウンセラー（環境省登録） 公害防止管理者（大気1種、水質1種、騒音、振動） 衛生管理者（1種） 危険物取扱者（乙4）
	その後中堅廃棄物処理会社で環境法務、EMS担当。行政許認可申請、環境アセス、行政折衝、契約書作成等を約10年間担当。	所属団体	神奈川県行政書士会 横浜商工会議所 NPO 法人 かながわ環境カウンセラー協議会 早稲田大学横浜稲門会

【編集後記】理事長から、巻頭言として、2017年度は「新しい環境活動」を見つける1年にしようとお話がありました。

最初に、当 NPO 法人かながわ環境カウンセラー協議会の岡本正義氏が「かながわ地球環境賞」を授与されたとの報告がありました。また、委員会報告では環境教育委員会から、支部活動報告では相模原支部、横須賀三浦支部、湘南支部、横浜支部から環境教育出前講座の報告が沢山寄せられました。また、「畑っこ・新羽の会」から、地域で体験型の農業学級活動（自然塾）報告が寄せられており、「新しい環境活動」の一環である「外部に向けた活動」が進んでいると心強く感じました。（千葉）

【発行】特定非営利活動法人

かながわ環境カウンセラー協議会（KECA）

理事長：河野健三/編集人：千葉雅子

◇住所：〒231-0001 横浜市中区新港2-2-1

横浜ワールドポーターズ6階 NPO スクエア内

◇電話：045-226-5822 FAX：045-226-5825

◇E-メール：

37keca@kke.biglobe.ne.jp

◇URL：

<http://www.1a.biglobe.ne.jp/hama37keca/>

◇年会費等振込先

ゆうちょ銀行

口座番号 00260-9-24711